

〈資料〉

久米島方言のアクセント資料（6）

——比嘉方言——

上野善道

1. はじめに

沖縄県島尻郡久米島町方言のアクセント調査報告として、固有名詞（地名・人名）を前部要素とする生産的複合語のアクセント資料を提示する（「〇〇ガス」など、架空の社名も含む）。このテーマでは同島の4回目で、本誌に掲載した旧仲里村（なかざとそん）の真謝（まじゃ）方言（拙論2020a）、旧具志川村（ぐしかわそん）の嘉手苺（かでかる）方言（拙論2020c）、同じく具志川方言（拙論2021）に続いて、今回は旧仲里村の比嘉（[ヒガ]、方言ではジャー[ム]、謝武。音調記号は後出）の方言を取り上げる。

話者は(1)の御夫妻で、中心話者は宇江城昌周氏である。同席されたサダエ氏には折に触れて確認したが、違った結果が得られた項目等には、その語形の後に（f.）を記した。お二人には、2013年の国立国語研究所によるアクセントの基礎的調査で最初にお世話になり、その後、仲原穰氏とともに再度伺って、その結果を拙論(2017)で報告している。また、拙論(2019)で扱った体言のアクセント資料も、同じく昌周氏に基づく。

(1) 久米島町比嘉 宇江城昌周（うえしろ しょうしゅう）氏 昭和3年生まれ
宇江城サダエ氏 昭和6年生まれ

この固有名詞を前部要素とする複合語アクセント調査は、実は久米島ではこの比嘉が最初であった。その後、項目を補訂しながら他集落にも調査の範囲を広げていった経緯があり、他の報告では入っている「〇〇（地名）の人」などの興味深い項目が含まれていないなどの違いがある。加えて、この調査表を一通り聞いた後、さらに確認と補充を計画していた段階で、話者の新しい家業の開始に伴って調査の継続は不可能となってしまったという背景がある。そのため、本報告は2018年の調査段階までの資料に基づくしかない。（その後、別の複数の話者をお願いした関係で、拙論2020b、2022の比嘉方言はそれぞれ別の話者である。）

2. 表記

資料は本論の後にまとめて掲げる。その調査項目については、一連の拙論と上記の補足説明に譲る。一部は「男、女」など、固有名詞以外の前部要素も含む。紙幅の関係で、後部要素の漢字表記は略したが、理解には支障がないと考える。その後部要素には、「小学校、中学校」などのように、それ自体がすでに複合語のものも含まれる。

各アクセントの記載は、原則として最初の回答順とした。なお、項目の配列は後部要素のアクセントを考慮しながら変えたので、一連の報告の間で同一項目の比較をするには不

便な面があるかもしれない。また、人名の「加藤」～「吉田」など、沖縄にはなかったと見られる名字は、それぞれのモーラ数の最後に回した（これらの一部は他地点では省略している）。

語音はカナ表記とするが、「製品、先生」などの -エイは、単独の丁寧な発音ではこれが出るものの、複合語の中での自然な発音では、むしろ -エーとなる。口蓋化も弱く、「下」はツァともチャとも、また「九州」は時にキューサーに聞こえ、そう記録した箇所もある。ダ行音もしばしばラ行音化する。全般的に、硬めの漢語が多く、またアクセントが主題でもあるので、これらの発音や表記にはあまりこだわらなかった。ただし、「儀間」が地名ではジマ、人名ではギマとなっているのは不統一ではない。人名はいち早く標準語化しやすいため、地名も次第に標準語化しつつあるとは言え、この使い分けはかなりはっきりしている。

音調表記と状況符号は(2)を用いる。音調は言い切り形のものである。

- (2) [: 上昇,] : 下降。[] を挟まずに [] が2つあるのは二度下がり。[ヒガ] は[ヒガ], [ヒガ]ガ, イ[ハ[はイ[ハ, イハ[ガ。[] : 発話によって出る（聞こえる）ことのある下降。<m> : 稀, <普> : こちらが普通, (OK) : 音声の書き取りミスにはあらず, これで可。一 : 欠落, 調査漏れ等。【】 : 私の補注と, 未確認項目の推測形。

3. アクセント

3.1 基礎的語彙のアクセント

まず、同じ話者から以前聞いた基礎的語彙のアクセントをモーラ数と音調型ごとに適宜(3)に示す（拙論2017, 2019）。2例以下の提示箇所を除き、類例は他にもある。

- (3) [ツ] (人), [ツァ]～[チャ] (下)。

[キー] (毛), [ナー] (名), [ハー] (葉); [クアー] (子), [ヘー] (灰, 蠅)。

キ[ー] (木), タ[ー] (田), ティ[ー] (手), ミ[ー] (目); カ[ー] (皮), ソ[ー] (竿)。

[キ]ー (今日), [クィ]ー (声, 杭), [ツ]イ (一人), [メ]ー (前); [ル]ー (自分, 体)。

[ウトゥ] (音), [ガマ] (洞窟), [ハシ] (橋), [ハナ] (鼻), [ミジ] (水), [ンニ] (胸)。

イ[ン] (犬), カ[タ] (肩), ハ[ナ] (花), フ[ニ] (舟), ン[ム] (芋); クワ[ー] (桑)。

[ウル]イ (踊り), [カー]ラ (川), [キブ]シ (煙), [ンナ]トゥ (港); [チー]バ (牙)。

[カツー] (鱧), [ニズー] (二十歳), [ハツァー] (蜂), [ヒレー] (坂), [マルー] (輪)。

カガ[ミ] (鏡), カタ[ナ] (刀), クイ[ミ] (暦), グサ[ヌ] (杖), クン[ル] (今年),

ハサ[ミ] (鋏); ウー[ミ] (海), ナー[カ] (中), ナー[ビ] (鍋), ムー[ク] (婿)。

イ[ツー] (糸), グ[サン] (杖, グサ[ヌ]とも), ク[スイ] (薬), ク[ルー] (黒)。

[ティ]ーチ (一つ)。

[アカ]ガイ (明かり), [ダキ]グシ (竹串), [ハナ]ジー (鼻血), [ムチ]ムン (もち米)。

アン[マ]ー (母), ウツ[ク]イ (風呂敷), ゴー[ヤ]ー (苦瓜), チン[ブル] (頭), デー

[ク]ニ (大根); オー[ル]ー (青), カー[ミ]ー (亀), サー[ル]ー (猿), マー[イ]ー

(鞠)。

カン[スイ] (剃刀), カン[ナイ] (雷), テー[フー] (台風), ヌク[ジリ] (鋸)。

イレー[ラ] (鎌), ユハン[リ] (夕方)。

[モー]ーウイ (真桑瓜)。

この(3)において、語頭の1モーラのみが高い[ツ] (人), [ツァ]~[チャ] (下); [キー]ー (今日), [クィ]ー (声, 杭), [メ]ー (前); [ティ]ーチ (一つ) の型は、2モーラ語にさらに若干の追加例があるだけの少数派であり、その高い部分はほとんどがヒト, シタ, ケウ (けふ), コエ (こゑ), マエ (まへ) などの2モーラ形に対応するもので、それらの元の形が融合して (さらにはリ>イの変化も加わって) 1モーラないし1重音節になった形と考えられる¹ (具志川方言の拙論2021: 111の注3も参照)。

次に、[ウル]イ (踊り), [キブ]シ (煙) など語頭2モーラだけが高い型に関連して、第2・第3モーラが長音節をなす場合は [カツー] (鯉), [ハツァー] (蜂) のように語頭3モーラが高くなる (上記拙論の注2参照)。比嘉方言における両型は異音の関係と見る。

一方で、低く始まる型は、3モーラ以上では第3モーラで高くなるのが原則である。ただし、低平ら調は許されないので2モーラ語単独形は第2モーラで高くなるが、助詞が付いて3モーラになると第3モーラが高くなり、フ[ニ, フニ[ガ] (舟) となる。第2・第3モーラが重音節をなす3モーラ語の場合は、重音節を割らずに高い部分を保持する必要がある関係で、重音節全体が高くなってイ[ツー] (糸), ク[スイ] (薬) のようになる。同じ単語のグサ[ヌ]とグ[サン] (杖) はその関係を典型的に示し、これらも相互に異音の関係にある。

ここまできると、この融合の前の段階では1モーラ語はなく、2モーラ語、3モーラ語のアクセントは (2モーラ語に一部詰めるべき点は残るが) 2つの型があった可能性が考えられる。しかしながら、この融合が生じた後の現共時態においては、2モーラ語は [キー] (毛), [ハナ] (鼻); キ[ー] (木), ハ[ナ] (花); [キー]ー (今日), 3モーラ語は [キブ]シ (煙), [カツー] (鯉); カガ[ミ] (鏡), グ[サン] (杖); [ティ]ーチ (一つ) の3つの型の対立があることになる。ただし、1モーラ語は [ツ] (人), [ツァ]~[チャ] (下) の1つの型しかない。これは、上述の融合短縮変化によって新しく生じたものだからである。

次に4モーラ語では、[アカ]ガイ (明かり), [ダキ]グシ (竹串) の型は [ウル]イ (踊り), [キブ]シ (煙) と同じ系列であるが、第3モーラで上昇する型に2種類の区別がある。ウツ[ク]イ (風呂敷), チン[ブル] (頭) などの語末が低くなる型と、カン[スイ] (剃刀), ヌク[ジリ] (鋸) などの語末まで高い型である。両型は、語末が重音節か軽音節連続というそれぞれ同じ音節構造に出ることから、対立すると解される (3.2節の(4)(5), 3.4節の

¹ ただし、[モー]ーウイ (真桑瓜) は「モー (野原) 瓜」であろうが、単独のモーは未調査。[モー]ーウイは録音を聞き直しても同じで、[モー]ウイには聞こえない。また、[ル]ーは「胴」に由来するとされ、「体、自分」の意味で用いられる。となると、この2語は融合とは無関係となる。

(10)も参照)。

そして、イレー[ラ] (鎌), ユハン[リ] (夕方) は, 第2・第3モーラが重音節をなしてその重音節までが低くなっており, その位置が軽音節連続で語末2モーラが高いヌク[ジリ]型の, 音節構造の違いによる変種と見る。

問題は残る[モ]ーウイ (真桑瓜) で, 1例だけではあるが, 他の型の変異形と見ることは困難で (本稿注1も参照), 独立の型と見るしかない。これを加えると, 4モーラ語には[ダキ]グシ, チン[ブル], ヌク[ジリ], [モ]ーウイの4種類の型があることになる。

以上をまとめると, 比嘉方言は, これまでの資料に基づく限り, 1モーラ語は1種類, 2・3モーラ語では3種類, 4モーラ語では4種類の対立のあるアクセント体系となる。本稿では, この記述的段階に留める。

3.2 固有名詞前部要素のアクセント

ここから本稿のテーマに入る。(4)に示すように, ここでも ([ティ]ーチ型と[モ]ーウイ型を除き) 前節と同じ対立が見られる。今回の調査で得られた「島, 漁業」もにここに掲げる。

(4) [ヒガ] (比嘉), [チバ] (千葉), [ミエ] (三重), [キョー] (京)

イ[ハ] (伊波=人名), ジ[マ] (儀間=集落名), シ[マ] (島)。

[オ]ー² (奥武=集落名) 【他地域で得られている[ドー] (堂)とト[ー] (唐)は未調査】。

[トヤ]マ (富山), [コー]チ (高知), [ウチ]マ (内間=人名), [タイ]ラ (平良=人名)。

[カト]ー (加藤), [サト]ー (佐藤), [ギョギョー] (漁業)。

アキ[タ] (秋田), イワ[テ] (岩手), グン[マ] (群馬), ナー[ハ] (那覇)。

フ[クイ] (福井), キ[カイ] (喜界, キカイ[ジ]マも), ヨ[ロン] (与論, ヨロン[ジ]マも)。

[カゴ]シマ (鹿児島), [ト]ーキョー (東京), [シン]ザト (新里=人名)。

オキ[ナ]ワ, ウチ[ナ]ー (沖縄), リュー[キュ]ー (琉球), ナカ[ソ]ネ (仲宗根)。

クメ[ジマ] (久米島), オー[シマ] (大島), トウイ[シマ] (鳥島), シマ[ジリ] (島尻)。

オラン[ダ] (国名)。Cf. ナカン[ダカ]リ (仲村渠=集落名), ホッカイ[ド]ー³ (北海道)。

この中で○○[○○]型は少数派で, 調査した範囲の人名では得られておらず (人名は[○][○][○]か○○[○][○]), (4)の例では「-島」の地名が多いが, ヒロ[シ]マ (広島) はこれと異なる (「島」の意味が同じではない可能性はあるが)。加えて, 同じ地名でも, ヤマ[ザ]トゥ (山里) に対してナカ[ザ]ト (仲里) で, 単独形の音調型もはっきり異なり, それぞ

2 この[オ]ーと[オ]ークトゥ]バ (奥武言葉) から, 未調査ながら, その集落のある「奥武島」のアクセントも, [モ]ーウイと同じ[オ]ージマである可能性がある。「奥武 (島)」は沖縄の数箇所にあり, 語源は諸説あるものの, 「青 (島)」が有力なようである。そうだとすれば, こちらは母音融合によるものとなる。

3 語頭2音節が軽・重の配列では上昇は第3モーラで起こるが, 重・重配列では第4モーラからの場合と第2モーラからの場合で揺れがある。「北海道」は最初ホッ[カイド]ーを記録した。「高等学校」も最初はコー[ト]ーガッコ]ーであったが, 確認時はコート]ー[ガッコ]ーとなった。一方で, 片やカンサイ[ク]ー (関西空港), カント]ー[チホ]ー (関東地方), 片やノー[ギョク]ミ]イ (農業組合), ト]ー[カイ]チホ]ー (東海地方) はそれぞれこの形しか記録していない。他にもそれぞれ類例があり, ここでは両者は変異形と見ておく。

れに助詞を付けても(5)のように異なる⁴。この区別は御夫妻とも一貫していた。

(5) ヤマ[ザ]トゥガ, ヤマ[ザ]トゥカラ 対 ナカ[ザト]ガ, ナカ[ザトカ]ラ

なお, 集落名を漢字表記したリストを読んでもらったにもかかわらず, 語音面で, 「山里」は-トゥであるのに対して「仲里」は-トで一貫して発音された。思うに, 元々はともに-トゥであったはずであるが, 「仲里」は旧町名として行政でよく使われたのでいち早く標準語化されたのに対して, 一集落名のままの「山里」では伝統的な発音が残ったものと考ええる。

3.3 後部要素のアクセント

後部要素は, 資料篇に合わせて長い方から単独形を示すと, (6)のようになる。4モーラ語の〇〇[〇〇]型と3モーラ語の[〇〇]〇型が欠けているが, このままで分析をする。

(6) [ケン]キュー (研究), [セイ]ヒン (製品), [メイ]ブツ (名物), [ガッ]コー (学校), [セン]セイ (先生)。

ギン[コー] (銀行), クミ[アイ] (組合), シン[ブン] (新聞), (シン[ポー] (新報), タイ[ム]ス, この2つは1例ずつのみ), ミン[ヨー] (民謡), ダイ[ガ]ク (大学)。
 ブン[カ] (文化), ミヤ[ギ] (土産), リョー[リ] (料理), クトゥ[バ] (言葉); リョ
 [コー] (旅行), レ[モン]。

[チホー] (地方)。

[ガス], [ケン] (県), [ドー] (道, 「北海・道」だとして) 【おそらく[ケン], [ドー]か】。

これらが複合語の後部要素に立ったときは, 3.5節で述べる「-地方」と「-県」を別にすれば, その交替には規則性が認められる。(7)に1例ずつ示す例(回答順から一部変更)から, (8)のようにまとめられる。ここは後部要素が着眼点で, 前部要素は参考に過ぎない。

(7) [ケン]キュー	→ オラン[ダケン]キュー, オラン[ダ]ケンキュー	オラン[ダ]
[セイ]ヒン	→ アメ[リカセイ]ヒン, アメ[リ]カセイヒン	アメ[リ]カ
[メイ]ブツ	→ [カゴ]シマメイブツ, カゴ[シマメイブツ]ツ ⁵	[カゴ]シマ
[ガッ]コー	→ クメ[ジマガッ]コー。ショー[ガッ]コー等も。	クメ[ジマ]
[セン]セイ	→ イト[カ]ズセンセイ (糸数先生)	イト[カ]ズ
ギン[コー]	→ ヒロ[シマギン]コー, ヒロ[シ]マギンコー	ヒロ[シ]マ
クミ[アイ]	→ [シン]ヨークミアイ, シンヨー[クミア]イ	[シン]ヨー
シン[ブン]	→ オー[シマシン]ブン, オー[シマ]シンブン	オー[シマ]
ミン[ヨー]	→ [カゴ]シマミンヨー 【おそらくカゴ[シマミン]ヨーも】	

4 固有名詞を中心に助詞カラの続き方も断片的ながら聞いてみた。今回はほとんどの型にカラはそのまま低く付いたが, 〇〇[〇〇]には, ナカ[ザト]の他に, シマ[ジリ] (島尻), トウイ[シマ] (鳥島) で〇〇[〇〇カ]ラが現われた。また, 〇〇[〇]でも, マー[ジャ] (真謝) と普通名詞のイキ[ガ] (男), イナ[グ] (女), クトゥ[バ] (言葉) に〇〇[〇カ]ラを記録した (「言葉」は〇〇[〇]カラとの併用)。拙論 (2017: 53注記1) の「海から, 鉄から」も比較参照。今回は旧稿時よりも全体として「下降の遅れ」の揺れは少なく感じた。

5 ただし, 「名物」だけは-メイブツと聞こえた例も数例記録してある。また, サダエ氏が側で自ら呟いた例が録音に入っており, それには-ケン]キュー, -セ]ーヒンと言っているかに関係する例があった。-

ダイ[ガ]ク	→ [トー]キョーダイガ]ク, トー[キョーダイガ]ク	[トー]キョー
ブン[カ]	→ オラン[ダブン]カ, オラン[ダ]ブン]カ	オラン[ダ]
ミヤ[ギ]	→ アメ[リカミヤ]ギ, アメ[リ]カミヤ]ギ	アメ[リ]カ
リョー[リ]	→ [カゴ]シマリョー]リ, カゴ[シマリョー]リ	[カゴ]シマ
クトゥ[バ]	→ アオ[モリクトゥ]バ, アオ[モ]リクトゥ]バ	アオ[モ]リ
リョ[コー]	→ ヒロ[シマリョコー], ヒロ[シ]マリョコー	ヒロ[シ]マ
レ[モン]	→ オラン[ダレモン], オラン[ダ]レモン	オラン[ダ]
[ガス]	→ [トー]キョーガ]ス, トー[キョーガ]ス	[トー]キョー

(8) 後部要素の元の型を問わず、複合語全体の後ろから2モーラ目（次末位）の後に下降〔〕が生ずる。

3.4 複合名詞のアクセント——複数パターンの併存

複合名詞アクセントの基本的パターンを検討する。すでに(7)から明らかなように、複数のパターンが併存することが、島内の他方言と異なる比嘉方言の特徴である。順に見ていく。

まず、高く始まり、語頭2モーラ（第2音節が長音節の場合は語頭3モーラ）が高く続く前部要素の場合、必ずあると言って良いのが、その前部要素にそのまま後部要素の交替型（-②型, (8)を参照）が続く型である。(7)の[カゴ]シマで言えば、[カゴ]シマメイブ]ツの例で、高始まりで下降が2度現われる型は、真謝方言、具志川方言にもあるものである。ところが、比嘉方言の場合、この他に、低く始まって基本的に3モーラ目から上昇してそれに後部要素の交替型が続く型もある。(7)の[カゴ]シマメイブ]ツと並ぶ、カゴ[シマメイブ]ツの併用例⁶がそれである。後者は、低始まり型におけるアメ[リ]カのアメ[リカセイヒ]ン、アメ[リカメイブ]ツと同じ型である。これまでの調査では、これは比嘉方言においてのみ、しかも2回目の確認調査で観察された型である。

調査では、多くはどちらか一方が出てきて（必ずしも高始まり型が最初に出るとは限らない）、他方を確認すると「それもあります」との答えが得られたが、時には話者の方から「〇〇もあります」と進んで答えてくれることもあった。限られた調査時間の中で、また、調査の流れをあまり妨げないようにするために、（特に高始まり型の）一方だけを記録して他方の確認は敢えてせずにそのまま進めてしまったところもあるが、片方が空白でも、この両型はおそらくほぼすべてにあるのではないかと考えている（(7)の【】はその一種である）。

比嘉方言の場合、部分的ではあるが、高始まり型にさらにもう一つの型が得られている。(9) [カゴ]シマダイガ]ク, [カゴシマダイガ]ク, カゴ[シマダイガ]クの2番目に上げた例がそれで、語頭から高く始まり、そのまま続いて最後に後部要素の交

6 [カゴ]シマメイブ]ツも、全体に{[〇〇]〇(…)}という式音調が被さっていると解釈すればこれも1アクセント単位と見ることができ、私はその立場を取っているが、カゴ[シマメイブ]ツはそのような前提なしでも1単位と解される。

替型が付く型である。ただし、この型は安定しておらず、何かの拍子に出て来るといった感じで、時には3番目の例との違いがそれほど明瞭ではないという印象も受けた。(9)の両端に示した2つの基本的型の、臨時的な折衷形なのかもしれない。(ただし、後出(11)も参照。)

以上は前部要素が高く始まる型であったが、次は、前部要素が低く始まり、第3モーラ(音環境により第4モーラ)で上昇する場合を取り上げる。まず、真謝・具志川方言にもあるように、前部要素の上昇位置を生かしながらそれに後部要素の交替型が付く型がある。オラン[ダ]、アメ[リ]カにおける、(7)のオラン[ダケンキュ]ー、アメ[リカセイヒ]ンの例である。

ところが、ここでももう一つの型が併存する。それは前部要素の型を保持しながら後部要素の交替型が低く続くもので、(7)のオラン[ダケンキュ]ー、アメ[リカセイヒ]ンの例がそれである。1単位形のオラン[ダケンキュ]ーとは異なり、2度の下降があつて2アクセント単位形と解される。ただし、後部要素は単独形とは異なる交替型なので、完全な2単位形ではなく、その分だけ融合が進んでいる型となる。「人名+先生」においては真謝方言にもこれが出てきたが(拙論2020a: 197)、それ以外にも広く現われるのは比嘉方言が初めてである。

そして、オキ[ナ]ワ(沖縄)とクメ[ジマ](久米島)を前部要素とする場合も、(10)のように前部要素の下降の位置の違いは保持される。

(10) オキ[ナ]ワメイブ]ツ、クメ[ジマ]メイブ]ツ

調査の後半での-クトゥ]バ(言葉)の例では、遺憾ながら併用型の確認を端折ってしまった関係で、(5)のヤマ[ザ]トゥ(山里)とナカ[ザト](仲里)の例は同じヤマ[ザトゥクトゥ]バ、ナカ[ザトクトゥ]バしか記録していないが、確認をすれば、*ヤマ[ザ]トゥクトゥ]バ、*ナカ[ザト]クトゥ]バもありうるものと予想する。

しかし、オラン[ダケンキュ]ーにせよオラン[ダケンキュ]ーにせよ、これらの低く始まる型が、高く始まる型を併用で持つ例は見つかっていない。高く始まる型が低く始まる型も併用しているのは大きく異なる点である。この方言においては、高く始まる型と低く始まる型が対等の関係にあるのではなく、高始まり型の方が有標ということになる。

話は変わって個別の例になるが、「人名+[セン]セイ(先生)」は、前部が普通名詞の「男先生、女先生、年寄り先生」におけるイキ[ガ]→イキ[ガセンセ]イなどとは異なり、イケ[マ](池間)→イケ[マ]センセ]イなどであることから2単位形と考える(ここでも後部要素の交替は起こっている)。これらにおいて1単位形の不在までは確認していないが、真謝・嘉手苅方言などから見ても、2単位形のみであろうと予想する⁷。

7 東京方言でも同様であることは、嘉手苅方言の拙論(2020: 108注4)に記した。追記をすると、そこに示した「柴田先生」/シ]バタ|センセ]イ/ (核表示) は、私もそう発音していたが、今から50年ほど前の院生時代に学部生が/シバタセンセ]イ/の1単位形に発音し出し、それが急速に広まっていったことをよく覚えている。この型も今では聞き慣れて違和感が減っているものの、自分ではやはり使う気にはなれずにいる。

次に、各都道府県名を中心とする「〇〇大学」は、前部要素が高始まり型の[ニー]ガタ(新潟)などでは[ニー]ガタダイガ]クとニー[ガタダイガ]クの併用で出るが、低始まり型の場合は、サイ[タ]マ(埼玉)におけるサイ[タマダイガ]クはあっても^xサイ[タ]マダイガ]クはなく、後者の型は他の例でも1例も記録していない。

この型の不在までは未確認であるが、これがないとしたら何故であろうか。先に高始まり型の方が全般に有標としたが、問題の型は低始まりなのに(上昇後に)下降が2回現われる特異なもので、島内他方言では見つかっておらず、最有標の型と見るとすると、「〇〇大学」が日常語でないことがその特異型と適合しない可能性が考えられる。ほとんどが戦後の新制大学で、話題になるのはリュウ[キューダイガ]クなど一部であり、それも古くからあった大学と同様、話題にするときは「琉大」などの略称で呼んでいたことが背景にあったものと推測する。結局、「〇〇大学」は新しい書き言葉、読み言葉なのであろう。実際、馴染みがないかと思われる大学名は言い淀んだ例もあった。なお、「〇大」の略称は調査をしていない⁸。

本節の最後に「都道府県名+[ガス]」を見る。前部要素が低始まり型では一貫していて、ミヤ[ギガ]ス、ヤマ[ガタガ]スのように単独型の上昇位置を保ったまま-ガ]スとなる。ところが、高始まり型は不統一で、[サガ]ガス、[トヤ]マガス、[ナガ]サキガスのように前部要素にそのまま低く続く例が(特に前部が2モーラ語の場合に)多いものの、他に(11)の3タイプを記録してある。

- (11) [オー]サカガ()ス、[オーサカガ]ス；[トー]キョーガ]ス、トー[キョーガ]ス；
[カゴシマガ]ス、カゴ[シマガ]ス

「大阪ガス」のように前部が長くなるほど後部の-ガ]スの下降が聞こえがちで、「東京ガス」の場合は「東京」の後に若干の言い淀みがあった関係で-ガ]スの下降がはっきり出た。前出の「佐賀ガス、富山ガス」では下降を特に記録していない。これらは、「ガス」が短い2モーラ語で、前部要素の下降と-ガ]スの下降との距離による音声学的に自然な現象と見る。なお、片や[オーサカガ]ス、[カゴシマガ]スに合わせた[トーキョーガ]スが、片やトー[キョーガ]ス、カゴ[シマガ]スに合わせたオー[サカガ]スがそれぞれ記録されていないが、これは調査時間の制約で確認できなかった不統一で、改めて聞けば出て来ると推測する。

3.5 後部要素が特異な振る舞いをする複合名詞

最後に残るは、後部要素の次末位に下降のある交替型が現われない(現われにくい)例で、具体的には[チホー(地方)と[ケン(県)]である。

「都道府県名+地方」は、調査の最後のところでまとめて一気に聞いたが、(12)の形の

8 略称の「〇大」は久米島のどこでも聞いていない(今にして思えば、「琉大、鹿大、九大」など、いくつかは項目にしてもよかったところである)。ちなみに、「〇〇大学」は、これまで取り上げた久米島方言では紙幅の関係で提示を割愛したか、調査そのものを省いており、資料の提示は比嘉方言が最初である。

みで、他の項目とは異なり、いずれもチホーが前部要素のアクセント型にそのまま低く続いた。

(12) [チバ]チホー, [イシ]カワチホー; ナガ[ノ]チホー, オキ[ナ]ワチホー

ただし、その前に別途聞いていた、より広い地方区分名の「東北、関東; 関西、九州」などでは

(13) [トー]ホクチホー, トー[ホクチホー], [カン]トーチホー, カントー[チホー];

カン[サ]イチホー, カンサイ[チホー], キュー[シュ]ーチホー, キュー[シユー]チホーなどで、低始まり後に上昇してそのままチホーが高く続く型⁹との併用であった。この差が調査時の差なのか言語的に有意な差なのか、有意としたら何を意味するのかは不明である。

「〇〇県」は、県名の単独形にそのまま-ケンが低いまま付く。ただ1つだけ例外があり、それは他でもない「沖縄県」である。

(14) オキ[ナ]ワ → オキ[ナワケ]ン

すなわち、他のヒロ[シ]マ→ヒロ[シ]マケンなどに合わせた^xオキ[ナ]ワケンにはならないのである。二人の話者も一貫していて、揺れを見せない。しかも、この唯一の例外は真謝方言にもあり、そこでは、オキ[ナワ]に対してオキ[ナワケ]ンになっている(拙論2020a: 198)。

その理由は未詳だが、地元なので「〇〇県」の中で最も良く見聞きし、口にもする語形であることが関係しているのであろう。「沖縄」の方言形はウチ[ナ]ーであるが、それをそのまま行政名に当てはめた「ウチナー県」は不自然なことも絡んでいそうである。

3.6 まとめ

得られた資料を提示し、その範囲で分析をして、比嘉方言は、その固有名詞複合語アクセントが複数のパターンを持つことが島内他方言と大きく異なる特徴であることを述べた。

[参照文献]

上野善道(2017)「久米島方言のアクセント資料」木部暢子編『消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究 久米島方言調査報告書』, 国立国語研究所: 43-61.

上野善道(2019)「久米島方言の体言のアクセント資料」『琉球の方言』43: 131-172. 【比嘉方言に次の入力ミスがあった。p. 156 サーター[グル]マ, サーター[ヤーグル]マ→サター[グル]マ, サター[ヤーグル]マ, p. 169 ウ[ミバン]ター→ウー[ミバン]タ, p. 171 [シタ]ティムン→[シタ]ティムン, シタ[ティム]ンの併用, p. 172

9 (13)の低始まり例では-チホーの語末がやや下がって聞こえることがあり、特にカンセイ[チホ]ーと読んだときははっきり下降したが、再度求めたときは明瞭な発音の答えで、そこに下降はないと判断した。

[クーリ]ザトー→[クー]リザトー。入力ミスではないが、p.169グワンジ[チ]はジに半上昇があると見てグワン[ジチ]と訂正。】

上野善道 (2020a) 「久米島方言のアクセント資料 (3) 【——真謝方言——】」『南島文化』42: 193-208.

上野善道 (2020b) 「久米島方言の体言のアクセント資料——那覇語彙 (1) ——」『琉球の方言』44: 189-241.

上野善道 (2020c) 「久米島方言のアクセント資料 (4) 【——嘉手苅方言——】」『南島文化』43: 105-121. 【p.108注4の最後, 「見るとの」→「見るのと」と訂正】

上野善道 (2021) 「久米島方言のアクセント資料 (5) ——具志川方言——」『南島文化』44: 109-127. 【p.119の「中村先生, 中村」→「仲村先生, 仲村」と訂正】

上野善道 (2022) 「久米島方言の用言のアクセント資料」『国語研究』85: 1-32.

【付記】 ご多用中にもかかわらずご教示下さった話者の宇江城昌周氏・サダエ氏御夫妻に厚く御礼を申し上げます。また、査読者からの質問に答える形で記述を補足することができました。

本稿はJSPS科学研究費19H00530 (代表者: 窪菌晴夫) による研究成果の一部である。同時に、国立国語研究所共同研究プロジェクト「日本・琉球語諸方言におけるイントネーションの多様性解明のための実証的研究」(プロジェクトリーダー: 五十嵐陽介), 並びに「消滅危機言語の保存研究」(プロジェクトリーダー: 山田真寛) の研究成果も兼ねる。

複合語	比嘉複合語アクセント (宇江城)	前部要素	前部アクセント	後部アクセント
オランダ研究	オラン[ダケンキュ]ー, オラン[ダ]ケンキュー	オランダ	オラン[ダ]	[ケン]キュー
アメリカ研究	アメ[リカケンキュ]ー, アメ[リ]カケンキュー	アメリカ	アメ[リ]カ	[ケン]キュー
鹿児島研究	[カゴ]シマケンキュー, カゴ[シマケンキュ]ー	鹿児島	[カゴ]シマ	[ケン]キュー
広島研究	ヒロ[シマケンキュ]ー, ヒロ[シ]マケンキュー	広島	ヒロ[シ]マ	[ケン]キュー
オランダ製品	オラン[ダセーヒ]ン, オラン[ダ]セーヒン	オランダ	オラン[ダ]	[セー]ヒン
アメリカ製品	アメ[リカセーヒ]ン, アメ[リ]カセーヒン	アメリカ	アメ[リ]カ	[セー]ヒン
鹿児島製品	[カゴ]シマセーヒン	鹿児島	[カゴ]シマ	[セー]ヒン
広島製品	ヒロ[シマセーヒ]ン, ヒロ[シ]マセーヒン	広島	ヒロ[シ]マ	[セー]ヒン
オランダ名物	オラン[ダメイブ]ツ, オラン[ダ]メイブツ	オランダ	オラン[ダ]	[メイ]ブツ
アメリカ名物	アメ[リカメイブ]ツ, アメ[リ]カメイブツ	アメリカ	アメ[リ]カ	[メイ]ブツ
鹿児島名物	[カゴ]シマメイブツ, カゴ[シマメイブ]ツ	鹿児島	[カゴ]シマ	[メイ]ブツ
広島名物	ヒロ[シマメイブ]ツ, ヒロ[シ]マメイブツ	広島	ヒロ[シ]マ	[メイ]ブツ
久米島名物	クメ[ジマメイブ]ツ, クメ[ジマ]メイブツ	久米島	クメ[ジマ]	[メイ]ブツ
沖縄名物	オキ[ナワメイブ]ツ, オキ[ナ]ワメイブツ	沖縄	オキ[ナ]ワ, ウチ[ナ]ー	[メイ]ブツ
那覇名物	ナー[ハメイブ]ツ, ナー[ハ]メイブツ	那覇	ナー[ハ]	[メイ]ブツ
宮古名物	[ミヤ]コメイブツ	宮古	[ミヤ]コ, [マー]ク	[メイ]ブツ
石垣名物	イシ[ガキメイブ]ツ, イシ[ガ]キメイブツ	石垣	イシ[ガ]キ	[メイ]ブツ
与那国名物	[ヨナ]グニメイブツ	与那国	[ヨナ]グニ	[メイ]ブツ
与論名物	ヨ[ロン]メイブツ	与論	ヨ[ロン]	[メイ]ブツ
沖永良部名物	オキ[エラブメイブ]ツ, オキ[エラ]ブメイブツ	沖永良部	オキ[エラ]ブ, エラ[ブ]	[メイ]ブツ
徳之島名物	トク[ノシマメイブ]ツ, トク[ノシ]マメイブツ	徳之島	トク[ノシ]マ	[メイ]ブツ
大島名物	オー[シマメイブ]ツ, オー[シマ]メイブツ	大島	オー[シマ]	[メイ]ブツ
名瀬名物	[ナゼ]メイブツ	名瀬	[ナゼ]	[メイ]ブツ
喜界名物	キ[カイ]メイブツ, キカイ[メイブ]ツ, キ[カイ]メーブツ	喜界	キ[カイ]	[メイ]ブツ
東京名物	[トー]キョーメイブツ	東京	[トー]キョー	[メイ]ブツ
八重山名物	[ヤエ]ヤマメイブツ, [イエー]マメイブツ	八重山	[ヤエ]ヤマ, [イエー]マ	[メイ]ブツ
鹿児島銀行	[カゴ]シマギンコー	鹿児島	[カゴ]シマ	ギン[コ]ー
広島銀行	ヒロ[シマギンコ]ー, ヒロ[シ]マギンコー	広島	ヒロ[シ]マ	ギン[コ]ー
東京銀行	[トー]キョーギンコー	東京	[トー]キョー	ギン[コ]ー
大阪銀行	[オー]サカギンコー	大阪	[オー]サカ	ギン[コ]ー
九州銀行	キュー[スーギンコ]ー, キュー[ス]ーギンコー	九州	キュー[ス]ー	ギン[コ]ー
名古屋銀行	[ナゴ]ヤギンコー	名古屋	[ナゴ]ヤ	ギン[コ]ー
北海道銀行	ホッカイ[ドーギンコ]ー,	北海道	ホッカイ[ド]ー,	ギン[コ]ー

複合語	比嘉複合語アクセント (宇江城)	前部要素	前部アクセント	後部アクセント
	ホッカイ[ド]ーギンコ]ー		(最初ホッ[カイ ド]ー)	
東北銀行	[トー]ホクギンコ]ー	東北	[トー]ホク	ギン[コ]ー
北陸銀行	[ホク]リクギンコ]ー	北陸	[ホク]リク	ギン[コ]ー
中央銀行	[チュー]オーギンコ]ー, チュー[オーギンコ]ー	中央	[チュー]オー	ギン[コ]ー
三重銀行	[ミエ]ギンコ]ー	三重	[ミエ]	ギン[コ]ー
信用組合	[シン]ヨークミア]イ, シンヨー[クミア]イ	信用	[シン]ヨー	クミ[ア]イ
農業組合	[ノー]ギョークミア]イ, ノー[ギョークミア]イ	農業	[ノー]ギョー	クミ[ア]イ
漁業組合	[ギョギョー]クミア]イ, ギョギョー[クミア]イ	漁業	[ギョギョー]	クミ[ア]イ
林業組合	[リン]ギョークミア]イ, リンギョー[クミア]イ	林業	[リン]ギョー	クミ[ア]イ
職員組合	[ソク]インクミア]イ, ソク[インクミア]イ	職員	[ソク]イン	クミ[ア]イ
教職員組合	キョー[ソクインクミア]イ, キョー[ソクイ]ンクミア]イ	教職員	キョー[ソクイ]ン	クミ[ア]イ
協同組合	キョー[ドークミア]イ, キョー[ロ]ークミア]イ	協同	キョー[ド]ー, キョー[ロ]ー	クミ[ア]イ
生活協同組合	セイ[カツ]キョード(1)ークミア]イ, セイ[カツキョードークミア]イ	生活	セイ[カツ]	クミ[ア]イ
奄美新聞	アマ[ミシンプ]ン, アマ[ミ]シンプ]ン	奄美	アマ[ミ]	シン[ブ]ン
大島新聞	オー[シマシンプ]ン, オー[シマ]シンプ]ン	大島	オー[シマ]	シン[ブ]ン
奄美大島新聞	アマ[ミオーシマシンプ]ン, アマ[ミ]オーシマシンプ]ン	奄美大島	アマ[ミオーシマ], アマ[ミ]オーシマ	シン[ブ]ン
東京新聞	[トー]キョーシンプ]ン, トー[キョーシンプ]ン	東京	[トー]キョー	シン[ブ]ン
京都新聞	キョー[トシンプ]ン, キョー[ト]シンプ]ン	京都	キョー[ト]	シン[ブ]ン
九州新聞	キュー[シューシンプ]ン, キュー[シュ]ーシンプ]ン	九州	キュー[シュ]ー	シン[ブ]ン
名古屋新聞	[ナゴ]ヤシンプ]ン	名古屋	[ナゴ]ヤ	シン[ブ]ン
産経新聞	サン[ケイシンプ]ン, サン[ケ]イシンプ]ン	産経	サン[ケ]イ	シン[ブ]ン
読売新聞	ヨミ[ウリシンプ]ン, ヨミ[ウ]リシンプ]ン	読売	ヨミ[ウ]リ	シン[ブ]ン
毎日新聞	マイ[ニチシンプ]ン, マイ[ニ]チシンプ]ン	毎日	マイ[ニ]チ	シン[ブ]ン
朝日新聞	アサ[ヒシンプ]ン, アサ[ヒ]シンプ]ン	朝日	アサ[ヒ]	シン[ブ]ン
四国新聞	シコ[クシンプ]ン, シコ[ク]シンプ]ン	四国	シコ[ク]	シン[ブ]ン
三重新聞	[ミエ]シンプ]ン	三重	[ミエ]	シン[ブ]ン
佐賀新聞	[サガ]シンプ]ン	佐賀	[サガ]	シン[ブ]ン
農業新聞	ノー[ギョーシンプ]ン	農業	[ノー]ギョー	シン[ブ]ン
古新聞	[フル]シンプ]ン, フル[シンプ]ン	古	[フル]	シン[ブ]ン
琉球新報	リュー[キューシンプ]ー, リュー[キュー]ーシンプ]ー	琉球	リュー[キュー]ー	<m>シン[ポ]ー
沖縄タイムス	オキ[ナワタイム]ス, オキ[ナ]ワタイム]ス	沖縄	オキ[ナ]ワ	タイ[ム]ス
オランダ民謡	オラン[ダミンヨ]ー, オラン[ダ]ミンヨ]ー	オランダ	オラン[ダ]	ミン[ヨ]ー

複合語	比嘉複合語アクセント (宇江城)	前部要素	前部アクセント	後部アクセント
アメリカ民謡	アメ[リカミンヨ]ー, アメ[リ]カミンヨー	アメリカ	アメ[リ]カ	ミン[ヨ]ー
鹿児島民謡	[カゴ]シマミンヨー	鹿児島	[カゴ]シマ	ミン[ヨ]ー
広島民謡	ヒロ[シマミンヨ]ー, ヒロ[シ]マミンヨー	広島	ヒロ[シ]マ	ミン[ヨ]ー
オランダ文化	オラン[ダブン]カ, オラン[ダ]ブンカ	オランダ	オラン[ダ]	ブン[カ]
アメリカ文化	アメ[リカブン]カ, アメ[リ]カブンカ	アメリカ	アメ[リ]カ	ブン[カ]
鹿児島文化	[カゴ]シマブンカ, カゴ[シマブン]カ	鹿児島	[カゴ]シマ	ブン[カ]
広島文化	ヒロ[シマブン]カ, ヒロ[シ]マブンカ	広島	ヒロ[シ]マ	ブン[カ]
オランダ土産	オラン[ダミヤ]ギ, オラン[ダ]ミヤギ	オランダ	オラン[ダ]	ミヤ[ギ], オミ[ヤ]ギ
アメリカ土産	アメ[リカミヤ]ギ, アメ[リ]カミヤギ	アメリカ	アメ[リ]カ	ミヤ[ギ]
鹿児島土産	[カゴ]シマミヤギ	鹿児島	[カゴ]シマ	ミヤ[ギ]
広島土産	ヒロ[シマミヤ]ギ, ヒロ[シ]マミヤギ	広島	ヒロ[シ]マ	ミヤ[ギ]
オランダ料理	オラン[ダリョー]リ, オラン[ダ]リョーリ	オランダ	オラン[ダ]	リョー[リ]
アメリカ料理	アメ[リカリョー]リ, アメ[リ]カリョーリ	アメリカ	アメ[リ]カ	リョー[リ]
鹿児島料理	[カゴ]シマリョーリ, カゴ[シマリョー]リ	鹿児島	[カゴ]シマ	リョー[リ]
広島料理	ヒロ[シマリョー]リ, ヒロ[シ]マリョーリ	広島	ヒロ[シ]マ	リョー[リ]
オランダ旅行	オラン[ダリョコ]ー, オラン[ダ]リョコー	オランダ	オラン[ダ]	リョ[コー], ロ[コー]とも
アメリカ旅行	アメ[リカリョコ]ー, アメ[リ]カリョコー	アメリカ	アメ[リ]カ	リョ[コー]
鹿児島旅行	[カゴ]シマリョコー	鹿児島	[カゴ]シマ	リョ[コー]
広島旅行	ヒロ[シマリョコ]ー, ヒロ[シ]マリョコー	広島	ヒロ[シ]マ	リョ[コー]
オランダレモン	オラン[ダレモン], オラン[ダ]レモン	オランダ	オラン[ダ]	レ[モン]
アメリカレモン	アメ[リカレモン], アメ[リ]カレモン	アメリカ	アメ[リ]カ	レ[モン]
鹿児島レモン	[カゴ]シマレモン, カゴ[シマレモン]	鹿児島	[カゴ]シマ	レ[モン]
広島レモン	ヒロ[シマレモン], ヒロ[シ]マレモン	広島	ヒロ[シ]マ	レ[モン]
久米島学校	クメ[ジマガッコ]ー	久米島	クメ[ジマ]	[ガッコ]コー
久米島小学校	クメ[ジマショーガッコ]ー, クメ[ジマ]ショーガッコー	久米島	クメ[ジマ]	ショー[ガッコ]ー
仲里小学校	ナカ[ザトショーガッコ]ー, ナカ[ザト]ショーガッコー	仲里	ナカ[ザト]	ショー[ガッコ]ー
比屋定小学校	ヒヤー[ジョー]ショーガッコー	比屋定	ヒヤー[ジョー]	ショー[ガッコ]ー
大岳小学校	オー[タ]ケショーガッコー	大岳	ー【オー[タ]ケか】	ショー[ガッコ]ー
美崎小学校	[ミサ]キショーガッコー	美崎	ー【[ミサ]キか】	ショー[ガッコ]ー
清水小学校	[シミ]ズショーガッコー	清水	ー【[シミ]ズか】	ショー[ガッコ]ー
久米島中学校	クメ[ジマチューガッコ]ー	久米島	クメ[ジマ]	チュー[ガッコ]ー
久米島高等学校	<m>クメ[ジマ]コートーガッコー	久米島	クメ[ジマ]	コー[トーガッコ]ー (コートー[ガッコ]ーも)
久米島高校	<普>クメ[ジマコー]ー	久米島	クメ[ジマ]	[コー]コー(談話で)
男先生	イキ[ガセン]セイ	男	イキ[ガ]	[セン]セイ
女先生	イナ[グセン]セイ	女	イナ[グ]	[セン]セイ
年寄り先生	トシ[ヨリ]センセイ	年寄り	トシ[ヨリ]	[セン]セイ
若先生	ワ[カー]センセイイ, ワカー[センセイ]イ, [ワ]カセンセイイ (OK)	若	ワ[カー]	[セン]セイ
教頭先生	[キョー]トーセンセイ	教頭	[キョー]トー	[セン]セイ
校長先生	コー[チョー]ーセンセイ (OK)	校長	コー[チョー]	[セン]セイ

複合語	比嘉複合語アクセント (宇江城)	前部要素	前部アクセント	後部アクセント
島袋先生	シマ[ブ]クセンセイ, シマ[ブク]ロセンセイイ	島袋	シマ[ブ]ク, シマ[ブク]ロ	[セン]セイ
新垣先生	[アラ]カキセンセイイ, [シン]ガキセンセイイ	新垣	[アラ]カキ, [シン]ガキ	[セン]セイ
糸数先生	イト[カ]ズセンセイイ	糸数	イト[カ]ズ	[セン]セイ
稲嶺先生	イナ[ミ]ネセンセイイ	稲嶺	イナ[ミ]ネ	[セン]セイ
宇江城先生	[ウエ]シロセンセイイ	宇江城	[ウエ]シロ	[セン]セイ
上原先生	[ウエ]ハラセンセイイ	上原	[ウエ]ハラ	[セン]セイ
大城先生	オー[シ]ロセンセイイ	大城	オー[シ]ロ	[セン]セイ
金城先生	[キン]ジョーセンセイイ, カネ[グシ]クセンセイイ	金城	[キン]ジョー, カネ[グシ]ク	[セン]セイ
具志堅先生	[グシ]ケンセンセイイ	具志堅	[グシ]ケン	[セン]セイ
国吉先生	[クニ]ヨシセンセイイ	国吉	[クニ]ヨシ	[セン]セイ
崎村先生	[サキ]ムラセンセイイ, サキ[ム]ラセンセイイ	崎村	[サキ]ムラ, サキ[ム]ラ	[セン]セイ
佐久川先生	サク[ガ]ーセンセイイ	佐久川	サク[ガ]ー	[セン]セイ
新里先生	[シン]ザトセンセイイ	新里	[シン]ザト	[セン]セイ
新城先生	[シン]ジョーセンセイイ, アラ[シ]ロセンセイイ	新城	[シン]ジョー, アラ[シ]ロ	[セン]セイ
高江洲先生	タカ[イエ]スセンセイイ	高江洲	タカ[イエ]ス	[セン]セイ
仲宗根先生	ナカ[ソ]ネセンセイイ	仲宗根	ナカ[ソ]ネ	[セン]セイ
仲原先生	ナカ[ハ]ラセンセイイ	仲原	ナカ[ハ]ラ	[セン]セイ
仲村先生	ナカ[ム]ラセンセイイ	仲村	ナカ[ム]ラ	[セン]セイ
前里先生	マエ[ザ]トセンセイイ	前里	マエ[ザ]ト	[セン]セイ
真栄平先生	マエ[ヒ]ラセンセイイ	真栄平	マエ[ヒ]ラ	[セン]セイ
又吉先生	[マタ]ヨシセンセイイ	又吉	[マタ]ヨシ	[セン]セイ
宮里先生	ミヤ[ザ]トセンセイイ	宮里	ミヤ[ザ]ト	[セン]セイ
宮平先生	[ミヤ]ヒラセンセイイ	宮平	[ミヤ]ヒラ	[セン]セイ
本永先生	モト[ナ]ガセンセイイ	本永	モト[ナ]ガ	[セン]セイ
盛吉先生	[モリ]ヨシセンセイイ	盛吉	[モリ]ヨシ	[セン]セイ
安村先生	ヤス[ム]ラセンセイイ	安村	ヤス[ム]ラ	[セン]セイ
山川先生	ヤマ[ガ]ーセンセイイ	山川	ヤマ[ガ]ー	[セン]セイ
山里先生	ヤマ[ザ]トセンセイイ	山里	ヤマ[ザ]ト	[セン]セイ
山城先生	ヤマ[シ]ロセンセイイ	山城	ヤマ[シ]ロ	[セン]セイ
吉永先生	ヨシ[ナ]ガセンセイイ	吉永	ヨシ[ナ]ガ	[セン]セイ
吉原先生	ヨシ[ハ]ラセンセイイ	吉原	ヨシ[ハ]ラ	[セン]セイ
与那嶺先生	ヨナ[ミ]ネセンセイイ	与那嶺	ヨナ[ミ]ネ	[セン]セイ
高橋先生	タカ[ハ]シセンセイイ	高橋	タカ[ハ]シ	[セン]セイ
渡辺先生	ワタ[ナ]ベセンセイイ	渡辺	ワタ[ナ]ベ	[セン]セイ
池間先生	イケ[マ]センセイイ	池間	イケ[マ]	[セン]セイ
内間先生	[ウチ]マセンセイイ	内間	[ウチ]マ	[セン]セイ
大田先生	オー[タ]センセイイ	大田	オー[タ]	[セン]セイ
我那覇先生	ガナ[ハ]センセイイ	我那覇	ガナ[ハ]	[セン]セイ
下地先生	[シモ]ジセンセイイ	下地	[シモ]ジ	[セン]セイ

複合語	比嘉複合語アクセント (宇江城)	前部要素	前部アクセント	後部アクセント
平良先生	[タイ]ラセンセイ	平良	[タイ]ラ	[セン]セイ
高良先生	[タカ]ラセンセイ	高良	[タカ]ラ	[セン]セイ
田里先生	タサ[ト]センセイ	田里	タサ[ト]	[セン]セイ
玉城先生	[タマ]キセンセイ, タマ[グシ]クセンセイ	玉城	[タマ]キ, タマ[グシ]ク	[セン]セイ
多和田先生	タワ[タ]センセイ	多和田	タワ[タ]	[セン]セイ
津波古先生	ツハ[コ]センセイ	津波古	ツハ[コ]	[セン]セイ
照屋先生	テル[ヤ]センセイ	照屋	テル[ヤ]	[セン]セイ
平田先生	[ヒラ]タセンセイ	平田	[ヒラ]タ	[セン]セイ
宮城先生	ミヤ[ギ]センセイ	宮城	ミヤ[ギ]	[セン]セイ
加藤先生	[カトー]センセイ	加藤	[カトー]	[セン]セイ
木村先生	キム[ラ]センセイ	木村	キム[ラ]	[セン]セイ
佐藤先生	[サトー]センセイ	佐藤	[サトー]	[セン]セイ
柴田先生	[シバ]タセンセイ	柴田	[シバ]タ, シバ[タ]	[セン]セイ
鈴木先生	スズ[キ]センセイ	鈴木	スズ[キ]	[セン]セイ
田中先生	タナ[カ]センセイ	田中	タナ[カ]	[セン]セイ
山田先生	ヤマ[ダ]センセイ	山田	ヤマ[ダ]	[セン]セイ
吉田先生	ヨシ[ダ]センセイ	吉田	ヨシ[ダ]	[セン]セイ
伊波先生	イ[ハ]センセイ	伊波	イ[ハ]	[セン]セイ
儀間先生	ギ[マ]センセイ	儀間	ギ[マ]	[セン]セイ
比嘉先生	[ヒガ]センセイ	比嘉	[ヒガ]	[セン]セイ
与儀先生	[ヨギ]センセイ	与儀	[ヨギ]	[セン]セイ
北海道大学	ホッカイ[ドーダイガ]ク	北海道	ホッカイ[ドー]	ダイ[ガ]ク
秋田大学	アキ[タダイガ]ク	秋田	アキ[タ]	ダイ[ガ]ク
岩手大学	イワ[テダイガ]ク	岩手	イワ[テ]	ダイ[ガ]ク
山形大学	ヤマ[ガタダイガ]ク	山形	ヤマ[ガ]タ	ダイ[ガ]ク
東北大学	[トー]ホクダイガク	東北	[トー]ホク	ダイ[ガ]ク
福島大学	フク[シマダイガ]ク	福島	フク[シ]マ	ダイ[ガ]ク
茨城大学	イバ[ラギダイガ]ク	茨城	イバ[ラ]ギ	ダイ[ガ]ク
宇都宮大学	ウツ[ノミヤダイガ]ク	宇都宮	—	ダイ[ガ]ク
群馬大学	グン[マダイガ]ク	群馬	グン[マ]	ダイ[ガ]ク
埼玉大学	サイ[タマダイガ]ク	埼玉	サイ[タ]マ	ダイ[ガ]ク
東京大学	トー[キョーダイガ]ク, [トー]キョーダイガク	東京	[トー]キョー	ダイ[ガ]ク
千葉大学	[チバ]ダイガク	千葉	[チバ]	ダイ[ガ]ク
神奈川大学	カナ[ガワダイガ]ク	神奈川	カナ[ガ]ワ	ダイ[ガ]ク
新潟大学	ニー[ガタダイガ]ク, [ニー]ガタダイガク	新潟	[ニー]ガタ	ダイ[ガ]ク
信州大学	[シン]シューダイガク	信州	[シン]シュー	ダイ[ガ]ク
山梨大学	ヤマ[ナシダイガ]ク	山梨	ヤマ[ナ]シ	ダイ[ガ]ク
静岡大学	シズ[オカダイガ]ク	静岡	シズ[オ]カ	ダイ[ガ]ク
富山大学	[トヤ]マダイガク	富山	[トヤ]マ	ダイ[ガ]ク
岐阜大学	[ギフ]ダイガク	岐阜	[ギフ]	ダイ[ガ]ク
名古屋大学	[ナゴ]ヤダイガク	名古屋	[ナゴ]ヤ	ダイ[ガ]ク

複合語	比嘉複合語アクセント (宇江城)	前部要素	前部アクセント	後部アクセント
金沢大学	カナ[ザワダイガ]ク	金沢	カナ[ザ]ワ	ダイ[ガ]ク
福井大学	フ[クイダイガ]ク (OK)	福井	フ[クイ]	ダイ[ガ]ク
滋賀大学	[シガ]ダイガク	滋賀	[シガ]	ダイ[ガ]ク
三重大学	[ミエ]ダイガク	三重	[ミエ]	ダイ[ガ]ク
奈良大学	[ナラ]ダイガク	奈良	[ナラ]	ダイ[ガ]ク
京都大学	キョー[トダイガ]ク	京都	キョー[ト]	ダイ[ガ]ク
大阪大学	[オー]サカダイガク	大阪	[オー]サカ	ダイ[ガ]ク
和歌山大学	[ワカ]ヤマダイガク	和歌山	[ワカ]ヤマ	ダイ[ガ]ク
神戸大学	コー[ベダイガ]ク	神戸	コー[ベ]	ダイ[ガ]ク
鳥取大学	トッ[トリダイガ]ク	鳥取	トッ[ト]リ	ダイ[ガ]ク
岡山大学	[オカ]ヤマダイガク	岡山	[オカ]ヤマ	ダイ[ガ]ク
島根大学	シマ[ネダイガ]ク	島根	シマ[ネ]	ダイ[ガ]ク
広島大学	ヒロ[シマダイガ]ク	広島	ヒロ[シ]マ	ダイ[ガ]ク
山口大学	ヤマ[グチダイガ]ク	山口	ヤマ[グ]チ	ダイ[ガ]ク
香川大学	カガ[ワダイガ]ク	香川	カガ[ワ]	ダイ[ガ]ク
徳島大学	トク[シマダイガ]ク	徳島	トク[シ]マ	ダイ[ガ]ク
愛媛大学	イェヒ[メダイガ]ク	愛媛	イェヒ[メ]	ダイ[ガ]ク
高知大学	[コー]チダイガク	高知	[コー]チ	ダイ[ガ]ク
九州大学	キュー[シューダイガ]ク	九州	キュー[シュ]ー	ダイ[ガ]ク
大分大学	オー[イタダイガ]ク	大分	オー[イ]タ	ダイ[ガ]ク
宮崎大学	ミヤ[ザキダイガ]ク	宮崎	ミヤ[ザ]キ	ダイ[ガ]ク
熊本大学	クマ[モトダイガ]ク	熊本	クマ[モ]ト	ダイ[ガ]ク
鹿児島大学	[カゴ]シマダイガク, [カゴシマダイガ]ク, カゴ[シマダイガ]ク	鹿児島	[カゴ]シマ	ダイ[ガ]ク
佐賀大学	[サガ]ダイガク	佐賀	[サガ]	ダイ[ガ]ク
長崎大学	[ナガ]サキダイガク	長崎	[ナガ]サキ	ダイ[ガ]ク
琉球大学	リュー[キューダイガ]ク	琉球	リュー[キュー]ー	ダイ[ガ]ク
早稲田大学	ワセ[ダダイガ]ク	早稲田	ワセ[ダ]	ダイ[ガ]ク
慶応大学	ケイ[オーダイガ]ク	慶応	ケイ[オー]	ダイ[ガ]ク
明治大学	メイ[ジダイガ]ク	明治	メイ[ジ]	ダイ[ガ]ク
日本大学	ニホン[ダイガ]ク	日本	ニ[ホン]	ダイ[ガ]ク
お茶の水大学	オチャ[ノミズダイガ]ク	お茶の水	オチャ[ノミ]ズ	ダイ[ガ]ク
教育大学	キョー[イクダイガ]ク	教育	キョー[イ]ク	ダイ[ガ]ク
芸術大学	[ゲイ]ジュツダイガク, ゲイ[ジュツダイガ]ク	芸術	[ゲイ]ジュツ	ダイ[ガ]ク
医科大学	[イカ]ダイガク, [イカダイガ]ク	医科	[イカ]	ダイ[ガ]ク
歯科大学	[シカ]ダイガク	歯科	[シカ]	ダイ[ガ]ク
音楽大学	[オン]ガクダイガク, オン[ガクダイガ]ク	音楽	[オン]ガク	ダイ[ガ]ク
体育大学	[タイ]イクダイガク	体育	[タイ]イク	ダイ[ガ]ク
女子大学	[ジョシ]ダイガク	女子	[ジョシ]	ダイ[ガ]ク
国立大学	[コク]リツダイガク, [コクリツダイガ]ク	国立	[コク]リツ	ダイ[ガ]ク
短期大学	タン[キダイガ]ク, [タン]キダイガク	短期	[タン]キ	ダイ[ガ]ク
工業大学	コー[ギョーダイガ]ク, [コー]ギョーダイガク	工業	[コー]ギョー	ダイ[ガ]ク

複合語	比嘉複合語アクセント (宇江城)	前部要素	前部アクセント	後部アクセント
男言葉	イキ[ガクトゥ]バ, イキ[ガ]クトゥバ	男	イキ[ガ]	クトゥ[バ]
女言葉	イナ[グクトゥ]バ, イナ[グ]クトゥバ	女	イナ[グ]	クトゥ[バ]
島言葉	シマ[クトゥ]バ	島	シ[マ]	クトゥ[バ]
オランダ言葉	オラン[ダクトゥ]バ, オラン[ダ]クトゥバ	オランダ	オラン[ダ]	クトゥ[バ]
アメリカ言葉	アメ[リカクトゥ]バ, アメ[リ]カクトゥバ	アメリカ	アメ[リ]カ	クトゥ[バ]
北海道言葉	ホッカイ[ドークトゥ]バ, ホッカイ[ド]ークトゥバ	北海道	ホッカイ[ド]ー	クトゥ[バ]
青森言葉	アオ[モリクトゥ]バ, アオ[モ]リクトゥバ	青森	アオ[モ]リ	クトゥ[バ]
秋田言葉	アキ[タクトゥ]バ, アキ[タ]クトゥバ	秋田	アキ[タ]	クトゥ[バ]
岩手言葉	イワ[テクトゥ]バ, イワ[テ]クトゥバ	岩手	イワ[テ]	クトゥ[バ]
山形言葉	ヤマ[ガタクトゥ]バ, ヤマ[ガ]タクトゥバ	山形	ヤマ[ガ]タ	クトゥ[バ]
宮城言葉	ミヤ[ギクトゥ]バ, ミヤ[ギ]クトゥバ	宮城	ミヤ[ギ]	クトゥ[バ]
福島言葉	フク[シマクトゥ]バ, フク[シ]マクトゥバ	福島	フク[シ]マ	クトゥ[バ]
茨城言葉	イバ[ラギクトゥ]バ, イバ[ラ]ギクトゥバ	茨城	イバ[ラ]ギ	クトゥ[バ]
栃木言葉	トチ[ギクトゥ]バ, トチ[ギ]クトゥバ	栃木	トチ[ギ]	クトゥ[バ]
群馬言葉	グン[マクトゥ]バ, グン[マ]クトゥバ	群馬	グン[マ]	クトゥ[バ]
埼玉言葉	サイ[タマクトゥ]バ, サイ[タ]マクトゥバ	埼玉	サイ[タ]マ	クトゥ[バ]
東京言葉	トー[キョークトゥ]バ, [トー]キョークトゥバ	東京	[トー]キョー	クトゥ[バ]
千葉言葉	[チバ]クトゥバ	千葉	[チバ]	クトゥ[バ]
神奈川言葉	カナ[ガワクトゥ]バ, カナ[ガ]ワクトゥバ	神奈川	カナ[ガ]ワ	クトゥ[バ]
新潟言葉	ニー[ガタクトゥ]バ, [ニー]ガタクトゥバ, ニー[ガ]タクトゥバ	新潟	[ニー]ガタ	クトゥ[バ]
長野言葉	ナガ[ノクトゥ]バ, ナガ[ノ]クトゥバ	長野	ナガ[ノ]	クトゥ[バ]
山梨言葉	ヤマ[ナシクトゥ]バ, ヤマ[ナ]シクトゥバ	山梨	ヤマ[ナ]シ	クトゥ[バ]
静岡言葉	シズ[オカクトゥ]バ, シズ[オ]カクトゥバ	静岡	シズ[オ]カ	クトゥ[バ]
富山言葉	[トヤマ]マクトゥバ	富山	[トヤマ]	クトゥ[バ]
岐阜言葉	[ギフ]クトゥバ	岐阜	[ギフ]	クトゥ[バ]
愛知言葉	アイ[チクトゥ]バ, アイ[チ]クトゥバ	愛知	アイ[チ]	クトゥ[バ]
石川言葉	イシ[カワクトゥ]バ, [イシ]カワクトゥバ	石川	[イシ]カワ	クトゥ[バ]
福井言葉	フ[クイ]クトゥバ	福井	フ[クイ]	クトゥ[バ]
滋賀言葉	[シガ]クトゥバ	滋賀	[シガ]	クトゥ[バ]
三重言葉	[ミエ]クトゥバ	三重	[ミエ]	クトゥ[バ]
奈良言葉	[ナラ]クトゥバ	奈良	[ナラ]	クトゥ[バ]
京都言葉	キョー[トクトゥ]バ, キョー[ト]クトゥバ	京都	キョー[ト]	クトゥ[バ]
大阪言葉	オー[サカクトゥ]バ, [オー]サカクトゥバ	大阪	[オー]サカ	クトゥ[バ]
和歌山言葉	[ワカ]ヤマクトゥバ	和歌山	[ワカ]ヤマ	クトゥ[バ]
兵庫言葉	ヒョー[ゴクトゥ]バ, ヒョー[ゴ]クトゥバ	兵庫	ヒョー[ゴ]	クトゥ[バ]
鳥取言葉	トツ[トリクトゥ]バ, トツ[ト]リクトゥバ	鳥取	トツ[ト]リ	クトゥ[バ]
岡山言葉	[オカ]ヤマクトゥバ	岡山	[オカ]ヤマ	クトゥ[バ]
島根言葉	シマ[ネクトゥ]バ, シマ[ネ]クトゥバ	島根	シマ[ネ]	クトゥ[バ]
広島言葉	ヒロ[シマクトゥ]バ, ヒロ[シ]マクトゥバ	広島	ヒロ[シ]マ	クトゥ[バ]
山口言葉	ヤマ[グチクトゥ]バ, ヤマ[グ]チクトゥバ	山口	ヤマ[グ]チ	クトゥ[バ]
香川言葉	カガ[ワクトゥ]バ, カガ[ワ]クトゥバ	香川	カガ[ワ]	クトゥ[バ]

複合語	比嘉複合語アクセント (宇江城)	前部要素	前部アクセント	後部アクセント
徳島言葉	トク[シマクトゥ]バ, トク[シ]マクトゥ]バ	徳島	トク[シ]マ	クトゥ[バ]
愛媛言葉	イエヒ[メクトゥ]バ, イエヒ[メ]クトゥ]バ	愛媛	イエヒ[メ]	クトゥ[バ]
高知言葉	コー[チクトゥ]バ, [コー]チクトゥ]バ	高知	[コー]チ	クトゥ[バ]
福岡言葉	フク[オカクトゥ]バ, フク[オ]カクトゥ]バ	福岡	フク[オ]カ	クトゥ[バ]
大分言葉	オー[イタクトゥ]バ, オー[イ]タクトゥ]バ	大分	オー[イ]タ	クトゥ[バ]
宮崎言葉	ミヤ[ザキクトゥ]バ, ミヤ[ザ]キクトゥ]バ	宮崎	ミヤ[ザ]キ	クトゥ[バ]
熊本言葉	クマ[モトクトゥ]バ, クマ[モ]トクトゥ]バ	熊本	クマ[モ]ト	クトゥ[バ]
鹿児島言葉	[カゴ]シマクトゥ]バ	鹿児島	[カゴ]シマ	クトゥ[バ]
佐賀言葉	[サガ]クトゥ]バ	佐賀	[サガ]	クトゥ[バ]
長崎言葉	[ナガ]サキクトゥ]バ	長崎	[ナガ]サキ	クトゥ[バ]
沖縄言葉	オキ[ナワクトゥ]バ	沖縄	オキ[ナ]ワ	クトゥ[バ]
大和言葉(本土の)	ヤマ[トウクトゥ]バ	大和	ヤマ[トウ]	クトゥ[バ]
久米島言葉	クメ[ジマクトゥ]バ	久米島	クメ[ジマ]	クトゥ[バ]
琉球言葉	リュウ[キュークトゥ]バ	琉球	リュウ[キュー]	クトゥ[バ]
那覇言葉	ナー[ハクトゥ]バ	那覇	ナー[ハ]	クトゥ[バ]
宮古言葉	ミヤ[コクトゥ]バ, [ミヤ]コクトゥ]バ	宮古	[ミヤ]コ	クトゥ[バ]
石垣言葉	イシ[ガキクトゥ]バ, イシ[ガ]キクトゥ]バ	石垣	イシ[ガ]キ	クトゥ[バ]
与那国言葉	[ヨナ]グニクトゥ]バ	与那国	[ヨナ]グニ	クトゥ[バ]
与論言葉	ヨロン[クトゥ]バ, ヨロン[ジマクトゥ]バ	与論	ヨ[ロン], ヨロン[ジ]マ	クトゥ[バ]
沖永良部言葉	オキ[エラプトクトゥ]バ, オキ[エラ]プトクトゥ]バ	沖永良部	オキ[エラ]プ	クトゥ[バ]
徳之島言葉	トク[ノシマクトゥ]バ	徳之島	トク[ノシ]マ	クトゥ[バ]
大島言葉	オー[シマクトゥ]バ	大島	オー[シマ]	クトゥ[バ]
名瀬言葉	[ナゼ]クトゥ]バ	名瀬	[ナゼ]	クトゥ[バ]
喜界言葉	キカイ[クトゥ]バ, キ[カイ]クトゥ]バ, キカイ[ジマクトゥ]バ	喜界	キ[カイ], キカイ[ジ]マ	クトゥ[バ]
京言葉	[キョー]クトゥ]バ	京	[キョー]	クトゥ[バ]
八重山言葉	[イエー]マクトゥ]バ	八重山	[ヤエ]ヤマ, [イエー]マ	クトゥ[バ]
西銘言葉	[ニシ]ミクトゥ]バ	西銘	[ニシ]ミ	クトゥ[バ]
大田言葉	ウフ[タクトゥ]バ, ウフ[タ]クトゥ]バ	大田	ウフ[タ]	クトゥ[バ]
嘉手刈言葉	カテ[カルクトゥ]バ, カテ[カ]ルクトゥ]バ	嘉手刈	カテ[カル]	クトゥ[バ]
儀間言葉	ジマ[クトゥ]バ	儀間	ジ[マ]	クトゥ[バ]
山城言葉	ヤマ[グシククトゥ]バ, ヤマ[グシ]ククトゥ]バ	山城	ヤマ[グシ]ク	クトゥ[バ]
阿嘉言葉	アー[カクトゥ]バ, アー[カ]クトゥ]バ	阿嘉	アー[カ]	クトゥ[バ]
宇江城言葉	[ウエ]グシククトゥ]バ	宇江城	[ウエ]グシク	クトゥ[バ]
宇根言葉	[ウチャ]ムクトゥ]バ	宇根	[ウチャ]ム	クトゥ[バ]
上江洲言葉	ウィー[ジクトゥ]バ, ウィー[ジ]クトゥ]バ	上江洲	ウィー[ジ], ウエ[ズ]	クトゥ[バ]
奥武言葉	[オー]クトゥ]バ (談話中[オー]クトゥ]バも)	奥武	[オー]	クトゥ[バ]
大原言葉	オー[ハラクトゥ]バ, [カイ]クンクトゥ]バ	大原	オー[ハラ], オー[ハ]ラ(f.),	クトゥ[バ]

複合語	比嘉複合語アクセント (宇江城)	前部要素	前部アクセント	後部アクセント
			[カイ]クン(開墾)	
兼城言葉	カニ[グシ]ククトゥバ, カニ[グシククトゥ]バ	兼城	カニ[グシ]ク	クトゥ[バ]
具志川言葉	グシ[チャーククトゥ]バ, グシ[チャーククトゥ]バ	具志川	グシ[チャ]ー	クトゥ[バ]
島尻言葉	シマ[ジリククトゥ]バ	島尻	シマ[ジリ]	クトゥ[バ]
謝名堂言葉	ジャナ[ローククトゥ]バ, ジャナ[ローククトゥ]バ (ジャナローはヤラローとも)	謝名堂	ジャナ[ロ]ー, ヤラ[ロ]ー	クトゥ[バ]
銭田言葉	ジン[ジャククトゥ]バ	銭田	ジン[ジャ]	クトゥ[バ]
鳥島言葉	トゥイ[シマククトゥ]バ	鳥島	トゥイ[シマ]	クトゥ[バ]
仲地言葉	ナカ[チククトゥ]バ	仲地	ナカ[チ]	クトゥ[バ]
仲泊言葉	ナカ[ルマイククトゥ]バ	仲泊	ナカ[ルマ]イ	クトゥ[バ]
仲村渠言葉	ナカン[ダカリククトゥ]バ	仲村渠	ナカン[ダカ]リ	クトゥ[バ]
比嘉言葉	ジャー[ムククトゥ]バ	比嘉	ジャー[ム] (謝 武), 今は[ヒガ]	クトゥ[バ]
比屋定言葉	ヒヤー[ジョーククトゥ]バ	比屋定	ヒヤー[ジョ]ー	クトゥ[バ]
真我里言葉	マガイ[ククトゥ]バ	真我里	マ[ガイ], マガ[リ]とも	クトゥ[バ]
真謝言葉	マー[ジャククトゥ]バ, マー[ジャククトゥ]バ	真謝	マー[ジャ]	クトゥ[バ]
山里言葉	ヤマ[ザトククトゥ]バ	山里	ヤマ[ザ]トク	クトゥ[バ]
仲里言葉	ナカ[ザトククトゥ]バ	仲里	ナカ[ザト]	クトゥ[バ]
北海道地方	ホッカイ[ド]ーチホー	北海道	ホッカイ[ド]ー	[チホー]
青森地方	アオ[モ]リチホー	青森	アオ[モ]リ	[チホー]
秋田地方	アキ[タ]チホー	秋田	アキ[タ]	[チホー]
岩手地方	イワ[テ]チホー	岩手	イワ[テ]	[チホー]
山形地方	ヤマ[ガ]タチホー	山形	ヤマ[ガ]タ	[チホー]
宮城地方	ミヤ[ギ]チホー	宮城	ミヤ[ギ]	[チホー]
福島地方	フク[シ]マチホー	福島	フク[シ]マ	[チホー]
茨城地方	イバ[ラ]ギチホー	茨城	イバ[ラ]ギ	[チホー]
栃木地方	トチ[ギ]チホー	栃木	トチ[ギ]	[チホー]
群馬地方	グン[マ]チホー	群馬	グン[マ]	[チホー]
埼玉地方	サイ[タ]マチホー	埼玉	サイ[タ]マ	[チホー]
東京地方	[ト]ーキョーチホー	東京	[ト]ーキョー	[チホー]
千葉地方	[チバ]チホー	千葉	[チバ]	[チホー]
神奈川地方	カナ[ガ]ワチホー	神奈川	カナ[ガ]ワ	[チホー]
新潟地方	[ニ]ーガタチホー	新潟	[ニ]ーガタ	[チホー]
長野地方	ナガ[ノ]チホー	長野	ナガ[ノ]	[チホー]
山梨地方	ヤマ[ナ]シチホー	山梨	ヤマ[ナ]シ	[チホー]
静岡地方	シズ[オ]カチホー	静岡	シズ[オ]カ	[チホー]
富山地方	[トヤ]マチホー	富山	[トヤ]マ	[チホー]
岐阜地方	[ギフ]チホー	岐阜	[ギフ]	[チホー]
愛知地方	アイ[チ]チホー	愛知	アイ[チ]	[チホー]
石川地方	[イシ]カワチホー	石川	[イシ]カワ	[チホー]
福井地方	フ[クイ]チホー (フク[イ]チホー?)	福井	フ[クイ]	[チホー]

複合語	比嘉複合語アクセント (宇江城)	前部要素	前部アクセント	後部アクセント
滋賀地方	[シガ]チホー	滋賀	[シガ]	[チホー]
三重地方	[ミエ]チホー	三重	[ミエ]	[チホー]
奈良地方	[ナラ]チホー	奈良	[ナラ]	[チホー]
京都地方	キョー[ト]チホー	京都	キョー[ト]	[チホー]
大阪地方	[オー]サカチホー	大阪	[オー]サカ	[チホー]
和歌山地方	[ワカ]ヤマチホー	和歌山	[ワカ]ヤマ	[チホー]
兵庫地方	ヒョー[ゴ]チホー	兵庫	ヒョー[ゴ]	[チホー]
鳥取地方	トッ[ト]リチホー	鳥取	トッ[ト]リ	[チホー]
岡山地方	[オカ]ヤマチホー	岡山	[オカ]ヤマ	[チホー]
島根地方	シマ[ネ]チホー	島根	シマ[ネ]	[チホー]
広島地方	ヒロ[シ]マチホー	広島	ヒロ[シ]マ	[チホー]
山口地方	ヤマ[グ]チチホー	山口	ヤマ[グ]チ	[チホー]
香川地方	カガ[ワ]チホー	香川	カガ[ワ]	[チホー]
徳島地方	トク[シ]マチホー	徳島	トク[シ]マ	[チホー]
愛媛地方	イェヒ[メ]チホー	愛媛	イェヒ[メ]	[チホー]
高知地方	[コー]チチホー	高知	[コー]チ	[チホー]
福岡地方	フク[オ]カチホー	福岡	フク[オ]カ	[チホー]
大分地方	オー[イ]タチホー	大分	オー[イ]タ	[チホー]
宮崎地方	ミヤ[ザ]キチホー	宮崎	ミヤ[ザ]キ	[チホー]
熊本地方	クマ[モ]トチホー	熊本	クマ[モ]ト	[チホー]
鹿児島地方	[カゴ]シマチホー	鹿児島	[カゴ]シマ	[チホー]
佐賀地方	[サガ]チホー	佐賀	[サガ]	[チホー]
長崎地方	[ナガ]サキチホー	長崎	[ナガ]サキ	[チホー]
沖縄地方	オキ[ナ]ワチホー	沖縄	オキ[ナ]ワ	[チホー]
東北地方	[トー]ホクチホー, トー[ホクチホー	東北	[トー]ホク	[チホー]
関東地方	[カン]トーチホー, カントー[チホー	関東	[カン]トー	[チホー]
中部地方	[チュー]ブチホー, チュー[ブチホー	中部	[チュー]ブ	[チホー]
北陸地方	[ホク]リクチホー, ホク[リクチホー	北陸	[ホク]リク	[チホー]
東海地方	[トー]カイチホー, トー[カイチホー	東海	[トー]カイ	[チホー]
関西地方	カン[サ]イチホー, カンサイ[チホー	関西	カン[サ]イ	[チホー]
中国地方	[チュー]ゴクチホー, チュー[ゴクチホー	中国	[チュー]ゴク	[チホー]
四国地方	シコ[ク]チホー, シコ[クチホー	四国	シコ[ク]	[チホー]
九州地方	キュー[シュ]ーチホー, キュー[シューチホー	九州	キュー[シュ]ー	[チホー]
北海道ガス(社名)	ホッカイ[ドー]ガス	北海道	ホッカイ[ド]ー	[ガス]
青森ガス	アオ[モリ]ガス	青森	アオ[モ]リ	[ガス]
秋田ガス	アキ[タ]ガス	秋田	アキ[タ]	[ガス]
岩手ガス	イワ[テ]ガス	岩手	イワ[テ]	[ガス]
山形ガス	ヤマ[ガ]タガス	山形	ヤマ[ガ]タ	[ガス]
宮城ガス	ミヤ[ギ]ガス	宮城	ミヤ[ギ]	[ガス]
福島ガス	フク[シマ]ガス	福島	フク[シ]マ	[ガス]
茨城ガス	イバ[ラ]ギガス	茨城	イバ[ラ]ギ	[ガス]
栃木ガス	トチ[ギ]ガス	栃木	トチ[ギ]	[ガス]
群馬ガス	グン[マ]ガス	群馬	グン[マ]	[ガス]

複合語	比嘉複合語アクセント(宇江城)	前部要素	前部アクセント	後部アクセント
埼玉ガス	サイ[タマガ]ス	埼玉	サイ[タ]マ	[ガス]
東京ガス	トー[キョーガ]ス, [トー]キョーガ]ス	東京	[トー]キョー	[ガス]
千葉ガス	[チバ]ガス	千葉	[チバ]	[ガス]
神奈川ガス	カナ[ガワガ]ス	神奈川	カナ[ガ]ワ	[ガス]
新潟ガス	ニー[ガタガ]ス (OK)	新潟	[ニー]ガタ	[ガス]
長野ガス	ナガ[ノガ]ス	長野	ナガ[ノ]	[ガス]
山梨ガス	ヤマ[ナシガ]ス	山梨	ヤマ[ナ]シ	[ガス]
静岡ガス	シズ[オカガ]ス	静岡	シズ[オ]カ	[ガス]
富山ガス	[トヤ]マガス	富山	[トヤ]マ	[ガス]
岐阜ガス	[ギフ]ガス	岐阜	[ギフ]	[ガス]
愛知ガス	アイ[チガ]ス	愛知	アイ[チ]	[ガス]
石川ガス	[イシ]カワガス	石川	[イシ]カワ	[ガス]
福井ガス	フ[クイガ]ス (OK)	福井	フ[クイ]	[ガス]
滋賀ガス	[シガ]ガス	滋賀	[シガ]	[ガス]
三重ガス	[ミエ]ガス	三重	[ミエ]	[ガス]
奈良ガス	[ナラ]ガス	奈良	[ナラ]	[ガス]
京都ガス	キョー[トガ]ス	京都	キョー[ト]	[ガス]
大阪ガス	[オーサカガ]ス, [オー]サカガ(1)ス	大阪	[オー]サカ	[ガス]
和歌山ガス	[ワカヤマガ]ス	和歌山	[ワカ]ヤマ	[ガス]
兵庫ガス	ヒョー[ゴガ]ス	兵庫	ヒョー[ゴ]	[ガス]
鳥取ガス	トッ[トリガ]ス	鳥取	トッ[ト]リ	[ガス]
岡山ガス	[オカ]ヤマガ(1)ス, [オカヤマガ]ス	岡山	[オカ]ヤマ	[ガス]
島根ガス	シマ[ネガ]ス	島根	シマ[ネ]	[ガス]
広島ガス	ヒロ[シマガ]ス	広島	ヒロ[シ]マ	[ガス]
山口ガス	ヤマ[グチガ]ス	山口	ヤマ[グ]チ	[ガス]
香川ガス	カガ[ワガ]ス	香川	カガ[ワ]	[ガス]
徳島ガス	トク[シマガ]ス	徳島	トク[シ]マ	[ガス]
愛媛ガス	イエヒ[メガ]ス	愛媛	イエヒ[メ]	[ガス]
高知ガス	[コー]チガ(1)ス	高知	[コー]チ	[ガス]
福岡ガス	フク[オカガ]ス	福岡	フク[オ]カ	[ガス]
大分ガス	オー[イタガ]ス	大分	オー[イ]タ	[ガス]
宮崎ガス	ミヤ[ザキガ]ス	宮崎	ミヤ[ザ]キ	[ガス]
熊本ガス	クマ[モトガ]ス	熊本	クマ[モ]ト	[ガス]
鹿児島ガス	[カゴシマガ]ス, カゴ[シマガ]ス	鹿児島	[カゴ]シマ	[ガス]
佐賀ガス	[サガ]ガス	佐賀	[サガ]	[ガス]
長崎ガス	[ナガ]サキガス	長崎	[ナガ]サキ	[ガス]
沖縄ガス	オキ[ナワガ]ス	沖縄	オキ[ナ]ワ	[ガス]
北海道	ホッカイ[ド]ー	北海道	ホッカイ[ド]ー	[ド]
青森県	アオ[モ]リケン	青森	アオ[モ]リ	[ケン]
秋田県	アキ[タ]ケン	秋田	アキ[タ]	[ケン]
岩手県	イワ[テ]ケン	岩手	イワ[テ]	[ケン]
山形県	ヤマ[ガ]タケン	山形	ヤマ[ガ]タ	[ケン]
宮城県	ミヤ[ギ]ケン	宮城	ミヤ[ギ]	[ケン]
福島県	フク[シ]マケン	福島	フク[シ]マ	[ケン]

複合語	比嘉複合語アクセント (宇江城)	前部要素	前部アクセント	後部アクセント
茨城県	イバ[ラ]ギケン	茨城	イバ[ラ]ギ	[ケン
栃木県	トチ[ギ]ケン	栃木	トチ[ギ]	[ケン
群馬県	グン[マ]ケン	群馬	グン[マ]	[ケン
埼玉県	サイ[タ]マケン	埼玉	サイ[タ]マ	[ケン
東京都	[トー]キョート(f. も), トー[キョー]ト	東京	[トー]キョー	ー
千葉県	[チバ]ケン	千葉	[チバ]	[ケン
神奈川県	カナ[ガ]ワケン	神奈川	カナ[ガ]ワ	[ケン
新潟県	[ニー]ガタケン	新潟	[ニー]ガタ	[ケン
長野県	ナガ[ノ]ケン	長野	ナガ[ノ]	[ケン
山梨県	ヤマ[ナ]シケン	山梨	ヤマ[ナ]シ	[ケン
静岡県	シズ[オ]カケン	静岡	シズ[オ]カ	[ケン
富山県	[トヤ]マケン	富山	[トヤ]マ	[ケン
岐阜県	[ギフ]ケン	岐阜	[ギフ]	[ケン
愛知県	アイ[チ]ケン	愛知	アイ[チ]	[ケン
石川県	[イシ]カワケン	石川	[イシ]カワ	[ケン
福井県	フ[クイ]ケン	福井	フ[クイ]	[ケン
滋賀県	[シガ]ケン	滋賀	[シガ]	[ケン
三重県	[ミエ]ケン	三重	[ミエ]	[ケン
奈良県	[ナラ]ケン	奈良	[ナラ]	[ケン
京都府	キョー[ト]フ	京都	キョー[ト]	ー
大阪府	[オー]サカフ, オー[サカ]フ	大阪	[オー]サカ	ー
和歌山県	[ワカ]ヤマケン	和歌山	[ワカ]ヤマ	[ケン
兵庫県	ヒョー[ゴ]ケン	兵庫	ヒョー[ゴ]	[ケン
鳥取県	トッ[ト]リケン	鳥取	トッ[ト]リ	[ケン
岡山県	[オカ]ヤマケン	岡山	[オカ]ヤマ	[ケン
島根県	シマ[ネ]ケン	島根	シマ[ネ]	[ケン
広島県	ヒロ[シ]マケン	広島	ヒロ[シ]マ	[ケン
山口県	ヤマ[グ]チケン	山口	ヤマ[グ]チ	[ケン
香川県	カガ[ワ]ケン	香川	カガ[ワ]	[ケン
徳島県	トク[シ]マケン	徳島	トク[シ]マ	[ケン
愛媛県	イエヒ[メ]ケン	愛媛	イエヒ[メ]	[ケン
高知県	[コー]チケン	高知	[コー]チ	[ケン
福岡県	フク[オ]カケン	福岡	フク[オ]カ	[ケン
大分県	オー[イ]タケン	大分	オー[イ]タ	[ケン
宮崎県	ミヤ[ザ]キケン	宮崎	ミヤ[ザ]キ	[ケン
熊本県	クマ[モ]トケン	熊本	クマ[モ]ト	[ケン
鹿児島県	[カゴ]シマケン	鹿児島	[カゴ]シマ	[ケン
佐賀県	[サガ]ケン	佐賀	[サガ]	[ケン
長崎県	[ナガ]サキケン	長崎	[ナガ]サキ	[ケン
沖縄県	オキ[ナワケ]ン (OK. f. も) (~シマ[ジリ グ]ンクメ[ジマチョ]ーと同じアクセント が続く)	沖縄	オキ[ナ]ワ	[ケン